

令和3年度 健康保険組合の予算早期集計結果（概要）について

令和3年4月22日
健康保険組合連合会

- ① 令和3年度予算の経常赤字は5,098億円。健保組合の約8割が赤字。
- ② 実質保険料率が初めて10%を超える。
- ③ 義務的経費に占める拠出金割合が50%超の健保組合が全体の26.2%。
- ④ 保険料収入は報酬が減少し、前年度比2,167億円（2.6%）減の8兆60億円。
- ⑤ 前期高齢者納付金は前年度比1,007億円（6.5%）増の1兆6,467億円。

—もともと財政状況が厳しいなか、団塊世代が後期高齢者入りする2022年（令和4年）以降、さらに拠出金負担の急増が見込まれていたが、新型コロナウイルスが健保組合の財政にも大きな影響を与え、1年早く危機が到来—

	令和3年度予算	前年度増減（伸び率）	令和2年度予算
保険料収入	8兆60億円	▲2,167億円（▲2.6%）	8兆2,227億円
保険給付費	4兆2,980億円	▲654億円（▲1.5%）	4兆3,634億円
高齢者拠出金	3兆6,627億円	1,289億円（3.6%）	3兆5,338億円
経常収支差引額	▲5,098億円	▲2,792億円	▲2,306億円

※本概要は、令和3年度予算編成状況について本会へ報告のあった1,330組合の数値をもとに、同年4月1日時点に存在する1,387組合の財政状況を推計したものである。

- 赤字組合は169組合増加し、全体の約8割にあたる1,080組合。
- 平均標準報酬月額が1.3%減、平均標準賞与額は7.2%減。
- 平均保険料率は0.01ポイント増の9.23%、収支均衡に必要な財源を賄うための実質保険料率（調整保険料率を含む）は0.35ポイント増加し、過去最高の10.06%となる見通し。
- 義務的経費（法定給付費及び拠出金）に占める拠出金負担割合は1.3ポイント増加し、46.6%、同50%以上の組合は全体の26.2%（集計対象1,330組合のうち349組合）。
- 高齢者医療への拠出金は前年度比1,289億円（3.6%）増の3兆6,627億円、うち前期高齢者納付金は伸びが著しく、前年度比1,007億円（6.5%）増の1兆6,467億円。
- 標準報酬月額、標準賞与額および経常収支差額は、新型コロナウイルスの影響を受けた特定の業種（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業等）の悪化が著しい。
- 介護保険料は0.09ポイント増の1.77%。料率を引き上げた組合は全体の4割以上にのぼる。